

6月上旬、横浜市で第5回アフリカ開発会議(TICAD5)が開かれた。会場のパシフィコ横浜では、日本の中小企業がアフリカ支援に生かそうと考えている技術や製品を披露するブースが設けられた。その中でひときわ注目を集めている装置があった。ジー・イー・エス(GES、大阪市、宮川和彦社長)が開発した太陽光発電で動く飲料水の生成装置だ。

同社は水処理装置の設計や製造を手がける従業員22人の少数精鋭企業だ。強みは電気分解による水処理技術。有機性の電解質を含む廃水に外部から電気エネルギーを与え、強制的に酸化還元反応を起こして浄化する仕組みだ。

電気エネルギーは正極と負極の両電極を使って発生させる。電解処理によって、汚れが濃縮され

セラミック電極で長寿命

技あり中心

強さの秘密

きるとして、工場廃水や下水の処理などに活用されている。

電極汚損が難点

ただ、この電気分解による水処理で難点となるのが、電極の汚損による処理能力の低下だ。一般的に電極に使われている白金はメッキの剥がれなどが起きやすく、寿命が短い。GESは独自開発したセラミック製電極を採用することで、装置の

太陽光で発電

た水と浄化された水に分ける作業を装置のなかで何回も繰り返す。こうした過程を経ることで、汚れた水を最終的に浄化した水を最終的に浄化す。短時間で水処理がで

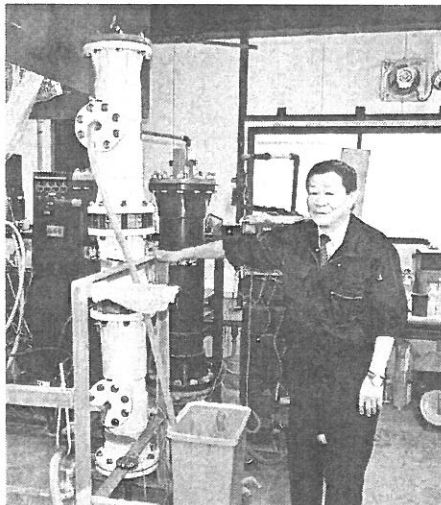
日量50トンの飲料水生成

1台の装置で、1日に50トンの飲料水が生成可能だ。より厳しい基準を求められる医療機関向けの除菌水でも1日に2ト

廃水の電解処理装置 ジー・イー・エス

△創業	1990年
△本社	大阪市平野区長吉長原東3の2の56
△売上高	7億円(2013年4月期)
△従業員	22人
△事業内容	水処理装置などの設計・製造や販売

実験装置の前に立つ中村信一 会長



成できるという。屋根面に太陽光発電システムを搭載したのもアフリカ向け装置の特徴のひとつだ。太陽光パネルで発電した電力で装置を動かすことができ、現地に数多く存在する無電化地域でも設置できるようになっている。実は、GESの立ち上げのきっかけとなったのは、アフリカだった。「汚

も高いことを実感しました。GISも受託開発も立ち行かなくなると考え、ワグビーを主力事業に据えました。もともとGISソフトを自動生成するために自



賛社長

「遊べる本屋」

に」

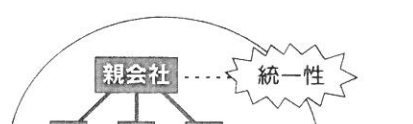
態で経営難に陥る。04年に東京に進出し、成長軌道に乗る。「このままつぶれるなら最後に原点に戻り、2000社に減らしました。そこにユーザーに恩返しをしリーマン・ショックや東日 よう」と思い、ユーザー会

非上場でもグループ経営

上場企業では、めてグループ全体の向上を目指す「営」が常識となっれに対し、非上場会社を保有していプ経営を行っていだ少ない。制度的書の作成を求めらためだ。ただ、こ企業経営のひとつ

中小経営

複数の事業を行っている場合、各事業を独立させ、グループとして経営する手法がある



「遊べる本屋」